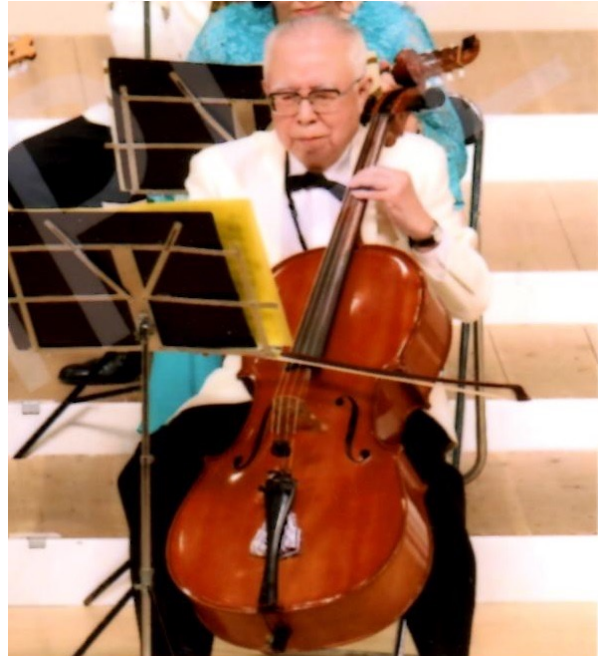


# 音楽と私

四街道シニア・アンサンブル 佐々木信一

小さい頃から歌うことが好きでした。小学校に入ってから（当時は国民学校）で、上手い下手は別として、戦中っ子の私は、軍歌、軍国歌謡をよく口ずさんでいました。もちろん、戦時中のこと、普通に歌う歌などはありませんでした。

戦後、父が急逝し、父の故郷へ大阪から四国香川県の寒村に転居しました。この時の落差は大変でした。中学校は村の小学校に間借りしていましたが、両校を通じてピアノもない状況でした。やがてやっと中古のアップライトのピアノが入りました。おそろおそろ講堂にあるピアノのふたを開けた途端にビックリ。鍵盤の象牙はまっ黄色に変色、真ん中のGの弦が切れている……。それでもピアノの音に魅せられて、音楽に向かう原点となりました。このころから合唱好きになり、10人くらい集まって合唱団の真似事のようなことをしながら高校へ進学。迷いなく音楽部の門を叩きました。



高校では合唱の指揮をすることを始め、音楽漬けの日々を過ごすようになりましたが、今から考えると、知識も技量もなく、よく指揮ができたと思や汗ものだったと思いますが、よい体験でもありました。

さて、つぎは大学です。私たちの学部はほとんどが男性でしたので、音楽部も男性のみでした。ここでは男性合唱の世界です。どっぷりと男性合唱に漬かっていると、完全にハマってしまいます。これが男性合唱の魅力です。また地元のNHKローカル局の放送合唱団にも入り月1回の生放送を楽しんだものでした。概して私たちの若いころは、合唱オンリーで、県下のどこの高校も大学も、吹奏楽やオーケストラはなく、もっぱら歌うことのみでした。

大学でも充実した音楽活動で、ずっと指揮をしていましたが、音楽部の活動全般については、定期演奏会の企画、構成、その日程の組み方、また外部との様々な折衝など、いろんなことを学びました。そのことは現在にも生かされている貴重な体験だったと思っています。

転勤で住み慣れた関西を去り千葉へ来ました。ある日、駅のポスターに目が止まりました。「この地で混声合唱団を作ります。団員募集」でした。考えてみれば、私も音楽から丁度20年のブランクになっているのに気づき、即刻応募しました。

そこで歌っているうち、徐々に地域との交流が広がり、オーケストラを作る人たちと出会いました。私はピアノは我流で何とか弾けますが、オーケストラの楽器は何も付き合いがないものの、何らかの形で参加したいと願い出たところ、「チェロが少ないから」と半ば強制的に、全くの初心者でありながら弾くことになりました。これには合唱で経験した読譜が大いに役立ちました。50歳でした。

このことは長い音楽生活の中で、新しく始まった第一歩と言えます。それまで合唱の世界しか知らなかったのが、新しい楽器の世界が開けたことになります。歳のせいと、長く在籍したせいで事務局を仰せつかり、これまた新しい世界となりました。

そうこうしているうちに、当地に「シニアアンサンブル」が誕生することとなり、オーケストラの成島団長や全シ連の岡村理事長の、今までのご縁から、四街道シニア・アンサンブルにかかわることになりました。総じて、合唱と器楽アンサンブルの二つの世界を経験できたこと、そしてその楽団は素晴らしい楽団に育ちつつあります。そのために絶えず身体を動かすこと、これが健康につながっていると感謝しています。これからも体力のある限り、アンサンブルに合唱に頑張ろうと思います。